

1 前提条件

OpenOLAP V2.1.0 を利用するには、以下の条件を満たしていることが前提条件となります。

マシン	種類	使用製品
サーバー	OS	Fedora Core 3
	データベースサーバー	PostgreSQL 8.0
	WWW サーバー	Apache 2.0
	アプリケーションサーバー	Tomcat 5.5 Tomcat Web Server Connectors
	Java 開発環境	J2SE5.0
クライアント	ブラウザ	Internet Explorer 6.0

※サーバー設定確認事項

1. OpenOLAP でグラフを表示するための設定 (JFreeChart の設定)

Tomcat 実行環境上で、グラフ用 Gif ファイルを作成するために、`$CATALINA_HOME/bin/catalina.sh` ファイルの最初に以下の記述を追加してください。

```
export CATALINA_OPTS="-Djava.awt.headless=true"
```

2. Tomcat4.x から Tomcat5.x へ変更したことに伴う設定追加

一部の日本語が文字化けすることを避けるため、`server.xml` の (使用している Port の) Connector 要素に以下の記述を追加してください。

```
useBodyEncodingForURI="true"
```

例)

```
<Connector port="8009"
           enableLookups="false" redirectPort="8443" debug="0"
           protocol="AJP/1.3" useBodyEncodingForURI="true"/>
```

※詳しくは以下を参照してください。

<http://jakarta.apache.org/tomcat/tomcat-5.0-doc/config/http.html>

2 インストール方法

1.1 インストール方法

インストールは次の順序に行います。

1. OpenOLAP_V2.1.0.zip を任意のディレクトリに解凍します。
2. 「Meta Tool」「ModelDesigner」「ReportDesigner」「Viewer」のそれぞれインストールを行います。
3. 必要であればサンプルデータを取り込みます。

1.2 MetaTool

1. OpenOLAP/exe/metatool ディレクトリ内の4ファイルを任意ディレクトリ内にコピーします。
 - MetaTool.jar
 - createTimeData.oo
 - createProcedure.oo
 - createMetaTable.oo
2. PostgreSQLにOpenOLAP用のユーザー、データベース、スキーマを作成します（ここではユーザー「olap」、データベース「openolap」、スキーマ「oo_meta」と仮定）。

```
createuser olap
createdb -O olap -E EUC_JP openolap
createlang plpgsql openolap
psql -U olap openolap
create schema oo_meta;
```

3. MetaTool.jar をダブルクリックして Meta Tool を起動させます。



4. [次へ] ボタンをクリックします。
5. 以下の情報を入力し、[次へ] ボタンをクリックします。



項目名	内容
ユーザー名	PostgreSQL ユーザー
パスワード	PostgreSQL ユーザーのパスワード
ホスト名	PostgreSQL が動作しているホストマシンの名前または IP アドレス
ポート	PostgreSQL のポート番号 (デフォルト「5432」)

項目名	内容
データベース名	PostgreSQL のデータベース名
スキーマ名	PostgreSQL のスキーマ名（ここでは、ユーザー名「olap」、パスワード「olap」、ホスト名「192.168.x.x」、ポート「5432」、データベース名「openolap」、スキーマ名「oo_meta」を入力する）

6. 入力情報を確認後、[次へ] ボタンをクリックします。



7. メタ情報の作成処理が開始されます。



8. 処理が終了したら「次へ」ボタンをクリックします。



9. 「閉じる」ボタンをクリックします。



1.3 ModelDesigner / ReportDesigner / Viewer 共通設定

Postgres JDBC ドライバをインストールします。

1. JDBC ドライバを \$CATALINA_HOME/common/lib に配置します。

1.4 Model Designer

1. OpenOLAP/exe/ModelDesigner/ModelDesigner.war を \$CATALINA_HOME/webapps/ に配置します。

2. \$APACHE2_HOME/conf/workers2.properties を編集します。
(下記設定情報を追加する)

```
[uri:/designer/*]
info=Openolap designer Application.
context=/designerdebug=0
```

3. \$CATALINA_HOME/webapps/ModelDesigner/login.ini を編集し、環境設定を行います。

[Environment]

DESIGNER_CLASSES_PATH	\$CATALINA_HOME/webapps/designer/WEB-INF/classes の絶対パス
JDBC_DRIVER	PostgreSQL JDBC ドライバの絶対パス

[Connect]※コネクト情報は複数記述可

LIST_NAME	任意接続名 (ログイン画面のリスト表示に使用)
USER_NAME	Meta Tool で指定したユーザー (olap)
SCHEMA_NAME	Meta Tool で指定したスキーマ (oo_meta)
CONNECT_SOURCE	jdbc:postgresql:// ホスト名:ポート番号/接続先データベース名 (openolap)

設定例

[Environment]

```
DESIGNER_CLASSES_PATH=/usr/local/tomcat/webapps/ModelDesigner/WEB-INF/classes
```

```
JDBC_DRIVER=/usr/local/tomcat/common/lib/postgresql-8.0-310.jdbc3.jar
```

[Connect 1]

```
LIST_NAME= メタ 1
```

```
USER_NAME=olap
```

```
SCHEMA_NAME=oo_meta
```

```
CONNECT_SOURCE=jdbc:postgresql://192.168.X.XX:5432/openolap
```

1.5 ReportDesigner & Viewer

※以下、ReportDesigner について説明します。Viewer を設定する場合は、ReportDesigner を Viewer に読み替えて設定を行ってください。

1. OpenOLAP/exe/ReportDesigner/ReportDesigner.war を \$CATALINA_HOME/webapps/ に配置します。
2. \$APACHE2_HOME/conf/workers2.properties を編集します。
(下記設定情報を追加する)
[uri:/ReportDesigner/*]
info= Openolap viewer Application.
context=/ReportDesigner
debug=0
3. \$TOMCAT_HOME/conf/Catalina/localhost/ReportDesigner.xml を編集し、接続先 DB の設定を行います。

url	jdbc:postgresql:// ホスト:ポート番号 / 接続先データベース名 (openolap)
username	Meta Tool で指定したユーザー (olap)
password	Meta Tool で指定したパスワード (olap)

設定例

```
url:jdbc:postgresql://192.168.X.XX:5432/openolap
username:olap
password:olap
```

例) <Context path="/ReportDesigner" > タグ内に下記を記述する

```
<Resource name="jdbc/postgreSQL" auth="Container"
    type="javax.sql.DataSource" driver-
ClassName="org.postgresql.Driver"
    url="jdbc:postgresql://192.168.X.X:5432/openolap"
    username="olap" password="olap" maxActive="20" maxIdle="10"
maxWait="-1"/>
```

4. \$CATALINA_HOME/webapps/ReportDesinger/login.ini を編集し、環境設定を行います。

[Connect]

LIST_NAME	任意接続名（ログイン画面のリスト表示に使用）
SCHEMA_NAME	Meta Tool で指定したスキーマ（oo_meta）
POOL_NAME	上記 3 で設定した Resource 名

設定例

LIST_NAME=openolap

SCHEMA_NAME=oo_meta

POOL_NAME=jdbc/postgreSQL

※接続先 DB の追加するには

Postgres 上に複数のデータベースがあり、1 つの OpenOLAP ReportDesigner でそれぞれ接続したい場合、ログイン画面で接続するデータベースを切り替えることができます。

以下の 2 ファイルに設定を追加します。

\$TOMCAT_HOME/conf/Catalina/localhost/ReportDesinger.xml へ追加

【設定例】

```
<Resource name="jdbc/postgreSQL" auth="Container"
    type="javax.sql.DataSource" driver-
ClassName="org.postgresql.Driver"
    url="jdbc:postgresql://192.168.X.X:5432/openolap"
    username="olap" password="olap" maxActive="20" maxIdle="10"
maxWait="-1"/>
```

```
<Resource name="jdbc/postgreSQL2" auth="Container"
    type="javax.sql.DataSource" driver-
ClassName="org.postgresql.Driver"
    url="jdbc:postgresql://192.168.X.X:5432/openolap2"
    username="olap" password="olap" maxActive="20" maxIdle="10"
maxWait="-1"/>
```


\$CATALINA_HOME/webapps/ReportDesinger/login.ini へ追加

【設定例】

[Common]

USE_LIST=true

[Connect1]

LIST_NAME= 開発環境

SCHEMA_NAME=oo_meta

POOL_NAME=jdbc/postgreSQL

[Connect2]

LIST_NAME= 本番環境

SCHEMA_NAME=oo_meta

POOL_NAME=jdbc/postgreSQL2

1.6 サンプルデータの取り込み

OpenOLAP マニュアルで使用されているサンプルデータを取り込むには、以下の手順でデータをインポートします。
(データベース名を openlap と仮定する)

1. OpenOLAP/sample_data/mart.dmp を任意のディレクトリに配置します。
2. 上記ディレクトリで、PostgreSQL の下記コマンドを発行します。
`pg_restore -U olap -d openlap -O mart.dmp`
3. `psql openlap` で PostgreSQL に接続し、`\d` コマンドを発行して以下 12 テーブルが作成されていることを確認します。

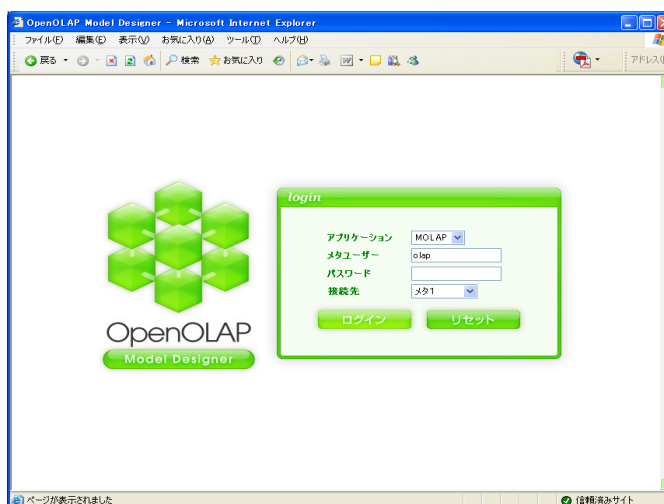
```
openlap=# \d
          List of relations
Schema |      Name      | Type  | Owner
-----+-----+-----+-----
public | channel        | table | olap
public | fact_sales     | table | olap
public | geog_account   | table | olap
public | geog_customer  | table | olap
public | geog_industry  | table | olap
public | geog_mfg       | table | olap
public | geog_region    | table | olap
public | geog_territory | table | olap
public | prod_class     | table | olap
public | prod_family    | table | olap
public | product        | table | olap
public | self_ref       | table | olap
(12 rows)
```

1.7 動作確認

1.7.1 ModelDesigner

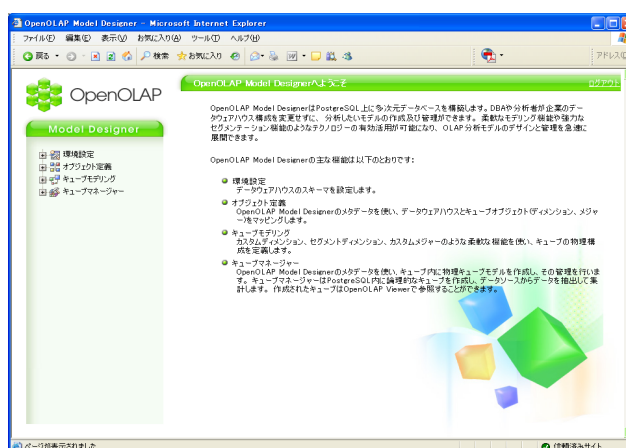
1. ブラウザを立ち上げ、下記のアドレスにアクセスし、ログイン画面が表示されることを確認します。

`http://<ホスト名>/ModelDesigner/login.jsp`



2. ログイン画面でユーザー名、パスワード、メタスキーマ、コネクトソースを入力後、ログインボタンを押下し、ログインができることを確認します。

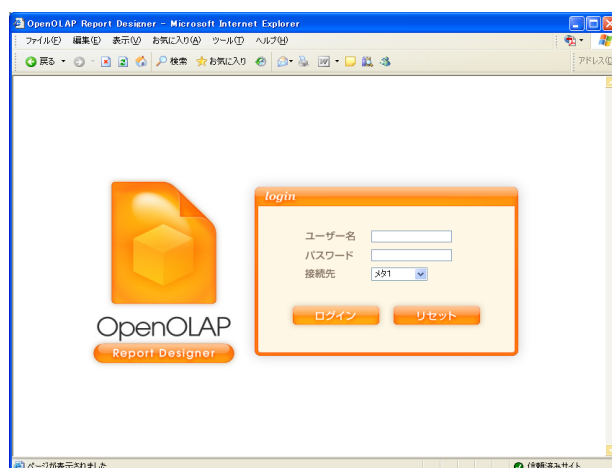
項目	入力内容
ユーザー名	Meta Tool で指定したユーザー (olap)
パスワード	Meta Tool で指定したパスワード (olap)
メタスキーマ	Meta Tool で指定したスキーマ (oo_meta)
コネクトソース	jdbc:postgresql:// ホスト名 : ポート番号 / 接続先データベース名 (openolap)



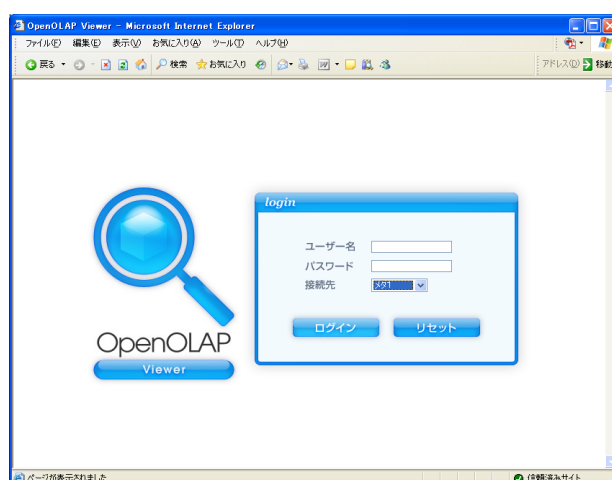
1.7.2 ReportDesigner & Viewer

1. ブラウザを立ち上げ、下記のアドレスにアクセスし、ログイン画面が表示されることを確認します。

<http://<ホスト名>/ReportDesinger/login.jsp>



<http://<ホスト名>/Viewer/login.jsp>



2. ログイン画面でデフォルトのユーザー名、パスワードを入力後、ログインボタンを押下し、ログインができることを確認します。

＜一般ユーザー＞

ユーザー名：user

パスワード：user

＜ゲストユーザー＞

ユーザー名：guest

パスワード：guest

＜管理者ユーザー＞

ユーザー名：admin

パスワード：admin

